

6月9日は 創立記念日！ ～ 笛吹高校の歴史を訪ねる～

1 校史の起点は明治 28 (1895) 年！

今から 129 年前の明治 28 (1895) 年 4 月、やがて笛吹高校に成長していくことになる小さな種子がこの地域に播かれました。その名は山梨養蚕教習所。全国屈指の養蚕地帯であったこの地域を担う人材育成を期して創設されました。「生徒は 13 名に達した」と記録にあります。

私たちの笛吹高校は、平成 22 (2010) 年 4 月に旧石和高校と山梨園芸高校を再統合して開校し今年 15 年目になります。実は本校の校史の起点は、上述の山梨養蚕教習所創設に遡り、来年 (令和 7 年) 本校は創立 130 周年の大きな節目を迎えます。



2 旧制蚕業学校時代の栄光

本校の沿革は右系譜のとおりです。本県の農業は明治期から太平洋戦争を経て戦後の昭和中期頃まで養蚕業が中心でした。本校は地域産業発展に重要な役割を担い、前身校の山梨県立蚕業学校は福島県立蚕業学校、長野県小県蚕業学校と共に我が国の「三大蚕業学校」と並び称されるに至りました。私たちが毎日仰ぎ見る正門右脇の老松は蚕業学校時代の大正 8 (1919) 年、現在地に移転した際に植栽されたもので (右上図)、1 世紀以上本校を見守ってきたシンボルツリーなのです。



3 石和高校と山梨園芸高校

昭和 23 (1948) 年地域産業の変貌 (養蚕→果樹) を反映し新たに園芸科を擁する新制の農蚕高校 (農業科単置) に移行、さら同 25 (1950) 年文部省の教育改革を受け総合制石和高校 (普通科等併置) へと脱皮しました。しかし、狭い校地に多彩な学科が犇めくことになり、やがて同窓会を中心に旧来の農業課程再興へ向けての地域を巻き込んだ大きな動きが興り、昭和 30 年代前半は中川区の山林の買収と、生徒・PTA・職員等関係者による広大な櫟林の開拓に多くの時間と労力が費やされました。この苦難の歴史を山梨園芸高校校歌はその一節で「翠したたる櫟原 希望の色は四方に映ゆ」と詠み、同校生徒会誌名は“翠櫟”としました。すいれき太鼓部 (部名は平仮名が正規) の語源はここからきています。昭和 34 (1959) 年には学校建物・農場 (現笛吹高校附属農場)・運動場を備えた石和高校東校舎として事実上単独校の体裁を整え、同 36 (1961) 年山梨園芸高校として開校しました (右中図)。



部活関係では、石和高校は軟式庭球 (右下図：昭和 31 年全国制覇)・ライフル射撃・自転車部等は全国レベルの成績を残し、各



部とも笛吹高校移行後も活躍中です。山梨園芸高校では陸上競技・柔道・弓道部等が関東や全国で活躍した他、先述のすいれき太鼓・植物研究部（昭和 61 年生物工学部の名で創設）が笛吹高校移行後も実績をあげています。

4 笛吹高校の開校

平成 22(2010)年 4 月、前述 2 校はほぼ半世紀ぶりに再統合され、普通科 3・食品化学科 1・果樹園芸科 1・総合学科 3 の計 8 学級、定員 1 学年 300 名（当時）の県下最大規模の総合制 笛吹高校として開校しました。笛吹高校の開校式・第 1 回入学式は同年 4 月 8 日山梨園芸高校体育館にて举行されました（右上図）。平成 22～23 年度は前身 2 校から笛吹高校への移行・併存期で、正門には 3 校の表札が掲げられ、学校行事、部活動、生徒会活動等は 3 校合同で行われることが多かったです（右中図：県高校野球大会は 3 校合同チームで参加）。平成 23 年度末には、石和高校・山梨園芸高校の閉校式が行われ、2 校の校旗は笛吹高校の後輩に引き継がれました（右下図）。笛吹高校独り立ちの瞬間でした。

笛吹高校開校から 15 年目。来年 令和 7 (2025) 年は、遠い明治 28 (1895) 年の草創以来 130 周年目の節目を迎えます。本校は県内では甲府一高・山梨英和高に次ぐ 3 番目に長い校史を刻んでいる高校です。

生徒の皆さんは、輝かしい歴史と伝統を有する誇らしい校史にどんな一頁を付け加えますか？ （文責 同窓会事務局 亀井）



↑ 上空より望む笛吹高全景（開校直後）。広大なグラウンドはかつて旧制蚕業学校の農場だった。

→ 本校は明治 28 (1895) 年創設以来、現笛吹市内を転々としていたが、大正 8 (1919) 年現在地に定着した（東八代郡立山梨蚕業学校時代）。正門の松はその際植栽された。種名はリギダマツ（*Pinus rigida*；北米原産の珍しい三葉松）。

